

連載

NIA 吉村会長の Coffee Break

国連職員として世界中を旅してきた吉村和就会長が、日本人の知らない海外事情をウィットとユーモアを交えて綴るコラムです。

第2回 ポストン物語

ボストンは 1630 年に英国より宗教の自由を求めて移住してきた清教徒ピューリタンで作られた都市です。教育を重視した清教徒は多くの学びの場を作りました。米国最古のハーバード大学やマサチューセッツ工科大学 (MIT) などの他沢山の大学があります。ボストン市内は古い町並みが多く、常に道路工事をしています。

ポリスに道を聞いたら？

米国人の同僚の運転で MIT に向かっていたところ、路に迷いウロウロ。先の交差点にサングラスをかけたポリスがいたので、「私は MIT に行きたい」と話しかけたら、ポリスの最初の答えは、大きな声で「Study Hard! しっかり勉強しろ」。すぐに笑いながらサングラスに手を当て「この道を直進、1 マイル先を左だ!」と教えてくれました。ポリスのウィットに感激でした。

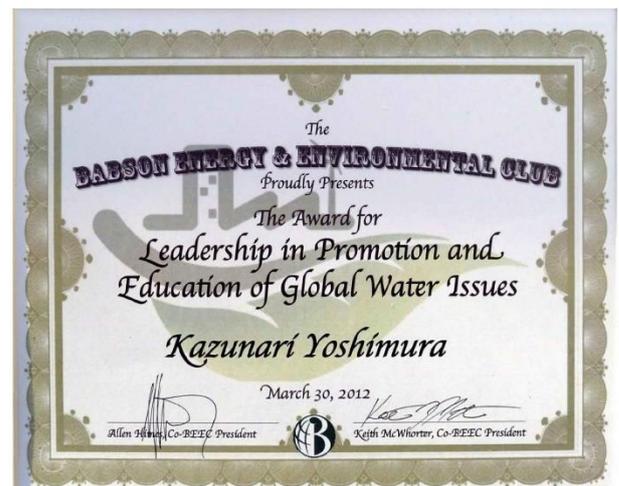
バブソン大学 (Babson College) で講義

2012 年、ボストン郊外のバブソン大学から「世界の水問題」の講義依頼があり渡米しました。バブソン大学は日本人にはあまりなじみがない私立大学ですが、企業家教育に特化した大学で、常に「企業家輩出大学」の全米トップです。特に演習が凄い。単に個人の能力開発だけでなく、教授、卒業生、実業家を巻き込んで、不確実性の高いビジネスを構築する「アントレプレナーシップ教育」を徹底的に叩き込むのです。トヨタ自動車の豊田章男会長やイオンの岡田元也会長など日本を代

表する企業経営者が卒業生です。さらに講義後の質問が凄く、一斉に受講生から手が挙がりました。「地球上の水資源の偏在をどう解決できるのか?」、「世界の水資源の価値は?」私の答えは「素晴らしい質問です。地球上の人間すべてに関わることですから、起業家を目指す皆さんと一緒に考えましょう・・・」と。目の前の教授が拍手をしてくれました。(笑い)

タングルウッド音楽祭

マサチューセッツ州タングルウッドで毎年夏に開催される世界的な野外音楽祭です。ニューヨークの自宅から車で 3 時間、ワイフと一緒に音楽祭へ行きました。指揮者小澤征爾さんが、ボストン交響楽団を離れる直前のコンサートで、運よくキャンセル待ちでチケットを入手でき、素晴らしいハーモニーに感動した音楽祭でした。今年 2 月に逝去された小澤征爾さんのご冥福をお祈りいたします。



バブソン大学からの感謝状